

令和3年度 南大沢スマートシティ協議会（第3回） 議事要旨

■日時：令和4年2月4日（金）13時30分～14時30分

■開催方式：オンライン会議

■出席者：委員21名、事務局

□主な意見

<実証実験の振り返りについて>

○アンケート結果について、ユーザーは満足度が高い一方、事業者は費用負担を伴う継続に対して消極的である。実験の取組を継続的に実施し、住民や来街者への認知度を高めるとともに、事業者に改善した結果を段階的に実感していただくことが必要である。

○施策の目的であるまちの賑わいの創出や回遊性の向上を日常化する取組が必要である。

<南大沢スマートシティの将来像について>

○ビジョンと3つのコンセプトで構成している点は良い。また、コンセプト間のトーンをそろえて分かりやすくしても良いと考える（「Accessible」（既存ストックや自然へのアクセス）、「Advanced」（新サービスや新商品）、「Academic」（産学公）の3A等）。

○コンセプトの「産学公」は、地域住民の主体的参画の意味を含む「公民学」の表現がふさわしいと考える。

○ビジョンの「先端技術のショーケース」は「南大沢固有の取組」にフォーカスしすぎているため、「他地域に水平展開する取組」の意味合いも含めた方が良いと考える。

○南大沢は、一般的には「アウトレット」がある街として定着していると思うので、将来像の要素として含めてもよいのではないかと考える。

○令和3年度第1回協議会で話があったとおり、シーズ先行でプロジェクトを進め、「ビジョンがないことがビジョン」であるとも考えられる。大学・企業のシーズから様々な先端技術を試し、社会実装へと展開するアプローチもあると考える。